

博士学位論文審査報告書

Summary of Doctoral Thesis and Report of Examination

研究科長 殿: 下記のとおり、審査結果を報告します。

To the Dean: We report the result of Examination for the Doctoral Thesis below.

学籍番号 Student ID	4007S307	学生氏名 Name	チェ・ヨンジュン
和文題名 Title in Japanese	日本の中高年女性の韓流消費持続に関する研究－グラウンデッド・セオリーによる分析		
英文題名 Title in English	A Study on Korean Wave Consumption by Japanese Middle Aged Women - A Grounded Theory Analysis		

記

1. 口述試験参加教員 Faculty Members Involved in Oral Examination

①審査委員会主査 Chief Referee of the Screening Committee

氏名 Name	篠原初枝 印	専門分野 Field of Specialization	国際関係論
所属 Affiliated Institution	早稲田大学大学院アジア太平洋研究科	資格 Status	教授
博士学位名 Ph.D. Title Earned	PhD in History	取得大学名 Name of Institution	University of Chicago

②審査委員会副査(審査委員 1) Deputy Advisor (Member of Screening Committee 1)

氏名 Name	内海愛子 印	専門分野 Field of Specialization	社会学・アジア研究
所属 Affiliated Institution	恵泉女学園大学	資格 Status	名誉教授
博士学位名 Ph.D. Title Earned	博士(学術)	取得大学名 Name of Institution	早稲田大学

③審査委員 2 Member of Screening Committee 2

氏名 Name	後藤乾一 印	専門分野 Field of Specialization	国際関係論・アジア研究
所属 Affiliated Institution	早稲田大学	資格 Status	名誉教授
博士学位名 Ph.D. Title Earned	博士(法学)	取得大学名 Name of Institution	慶応義塾大学

④審査委員 3 Member of Screening Committee 3

氏名 Name	Gracia Liu Farrer 印	専門分野 Field of Specialization	社会学
所属 Affiliated Institution	早稲田大学大学院アジア太平洋研究科	資格 Status	教授
博士学位名 Ph.D. Title Earned	PhD in Sociology	取得大学名 Name of Institution	University of Chicago

⑤審査委員 4[該当者のみ] Member of Screening Committee 4 [if any]

氏名 Name	印	専門分野 Field of Specialization	
所属 Affiliated Institution		資格 Status	
博士学位名 Ph.D. Title Earned		取得大学名 Name of Institution	

[時限 / Period] 1st: 9:00-10:30, 2nd: 10:40-12:10, 3rd: 13:00-14:30, 4th: 14:45-16:15, 5th: 16:30-18:00, 6th: 18:15-19:45, 7th: 20:00-21:30

2. 開催日時 Date / Time	2014 年(YY)/ 11 月(MM)/ 25 日(DD) ※ 12 :30 ~ 14:30 (Time)
3. 会場 Venue	19 号館(BLDG No.) 315 室(Room No.)
4. 合否判定 Result	合/Passed ・ 否/Failed ※該当する方に○ Circle as appropriate
5. 添付資料 Attached document(s)	4 枚 pages #和文 4,000 字程度、もしくは英文 1,500 語程度。ただし、論文題目のみは、和文・英文を併記すること。 #Approximately 4,000 characters in Japanese, or 1,500 words in English. The Doctoral Thesis title, however, must be written in both Japanese and English.

博士學位論文審査報告書

学生氏名：4013S851-1 崔尹禎

論文タイトル：日本の中高年女性の韓流消費持続に関する研究—グラウンデッド・セオリーによる分析

訳：A Study on Korean Wave Consumption by Japanese Middle Aged Women - A Grounded Theory Analysis

1. 要旨

この論文は、日本における中高年女性たちの韓流消費持続過程を質的研究、主に Strauss と Corbin (1998) が提示したグラウンデッド・セオリー (Grounded Theory) に基づき、47 人のインフォーマントの言葉の分析に力点をおいている。そして日本の中高年女性の大衆文化消費行動における類型及びその消費持続の原因に関する理論形成を目指す。数年間に渡って韓流を消費している日本の中高年女性たちは韓流を消費することにより「自己化」と「社会化」を行う能動的主体として社会と疎通していること、彼女たちの韓流ファンダム活動は単なる大衆文化の体験に留まらず今の日本社会におけるサブカルチャーとして位置づけられると主張する。

2. 目次

序章 質的研究のレンズとしての筆者の立ち位置

第一章

1. 研究背景：日本における韓流 10 年史
2. 研究目的
3. 本研究の構成

第二章 韓流に関する先行研究と本研究における重要概念

- 2- 1. 日韓両国の韓流研究動向
- 2- 2. 中高年の定義
- 2- 3. サブカルチャーとファンダム
 - 2- 3- 1. 大衆文化とサブカルチャー
 - 2- 3- 2. ファンダム論の展開：フィスクのファンダム論を中心に
- 2- 4. 女性の労働と現代における余暇の概念
 - 2- 4- 1. 性別役割分業とケア労働
 - 2- 4- 2. 余暇とワーク・ライフ・バランス

第三章 質的研究へのアプローチ

- 3- 1. 本研究における質的研究の意義
 - 3- 1- 1. 参与観察
 - 3- 1- 2. グラウンデッド・セオリー
 - 3- 1- 3. 質的研究の評価規準
- 3- 2. 研究過程
 - 3- 2- 1. 研究者としての準備
 - 3- 2- 2. 研究対象
 - 3- 2- 3. データ収集と倫理的配慮
 - 3- 2- 4. グラウンデッド・セオリーによるデータ分析過程

第四章 グラウンデッド・セオリーによるデータ分析結果

4- 1. インフォーマントの属性

4- 2. オープン・コーディング (Open coding) による 24 個のカテゴリー導出過程

4- 3. アキシアル・コーディング (Axial coding) によるカテゴリー分析

4- 3- 1. カテゴリー同士の状況・条件、行為・相好行為、帰結関係

4- 3- 2. カテゴリー同士の関係性

第五章 セレクティブ・コーディング (Selective coding) による韓流消費における理論導出過程

5- 1. 24 個のカテゴリーによる韓流消費のストーリーライン展開

5- 2. インフォーマントの韓流消費における三つの類型

5- 3. セルフケア (Self-Care) 手段としての韓流消費

5- 4. 韓流消費持続の三段階、「正・反・合」

第六章 結論

6- 1. データ分析結果のまとめ

6- 2. 考察

6- 2- 1. 女性の労働と余暇の関係

6- 2- 2. 日本におけるサブカルチャーとしての韓流

終章 本研究の限界と今後の課題

参考文献

【付録】 インフォーマントデータ (47 名)

3. 内容

序章では、質的研究のレンズとしての筆者の立ち位置を明らかにすることによって、本研究において筆者の観点がデータの解釈にどう関わってくるのかを説明した。

第一章は、日本における韓流の 10 年間に渡る流れを分析、研究目的を定めた。そして、本研究の全体図が分かる構成の説明を加えた。

第二章では、既存の日韓両国における韓流の研究動向を紹介し、グラウンデッド・セオリーのコーディング作業によって得た分析結果に基づき、本研究の核心概念であると考えられる、中高年という概念の定義、サブカルチャーとしての大衆文化とファンダム論、性役割分担と女性のケア労働に関する問題、余暇とワーク・ライフ・バランス (work life balance) に関する研究を紹介している。本研究は筆者の既存の先入観や知識によってデータの分析が歪曲されないよう、収集したデータを基にオープン・コーディング (Open coding) を行ってから有意義だと思われる先行研究を強化する作業を行っているが、記述の順番としては先行研究の紹介を第二章に持ってきているという。

第三章は、本研究が質的研究である価値を確認すべく、研究設計の段階から質的研究とその方法論としてのグラウンデッド・セオリーの紹介、筆者の行った参与観察について、続いてグラウンデッド・セオリーに基づいた研究過程について詳しく述べている。

第四章では、まず 47 名のインフォーマントの属性を分析し、グラウンデッド・セオリーの 3 段階のコーディングの中、オープン・コーディング (Open coding)、アキシアル・コーディング (Axial coding) による 24 個のカテゴリーの導出過程を紹介する。24 個のカテゴリーとは「中高年という年齢・役割認識」、「中高年のケア

労働」、「女性の社会進出」、「家父長的価値観」、「成長環境」、「偏見」、「情報の普遍化」という中高年女性の韓流消費の持続という現象に影響を及ぼす7個の状況・条件(condition)、そして「日本のコンテンツに対する失望感」、「韓国コンテンツの質の高さ」、「ノマド気質」、「ファンの区別」、「異文化消費」、「人的ネットワーク構築」、「共有」、「経済的自立」、「感情管理」、「自分へのご褒美」、「自分の変化」、「韓国・韓国人に対する表象」、「韓流の日常化」、「両国理解・民間交流」、「韓流消費の持続」の15個行為・相互行為(action/interaction)、「自己化」、「社会化」という2つの帰結(consequence)であり、これらのカテゴリー同士は「状況・条件」、「行為・相好行為」、「帰結」の有機的關係性を持つという。更に、カテゴリー同士の關係性を10個の図式で明確に表した。

第五章では、セレクトティブ・コーディング(Selective coding)を行い韓流消費における理論導出へ向かう過程を詳しく述べている。前章で導出された24個のカテゴリーによる韓流消費のストーリーライン展開することにより導出された各カテゴリーの信憑性を確認、その上、インフォーマントの韓流消費の三つの類型を「関係指向型」、「自己満足追求型」、「現実打破型」と分類した。更に、なぜ中高年女たちが韓流消費を持続するのかという問題に対して「ケア労働をする女性のセルフケア手段としての韓流消費」という概念を核心カテゴリーとして導出し、日本社会における女性の労働の周辺化の問題と余暇としての大衆文化消費の關係性に着目する。そして、最後に「ケア労働をする女性のセルフケア手段としての韓流消費」という核心カテゴリーを基に日本の中高年女性の韓流消費持続行動は、「正(受容)・反(偏見)・合(セルフケア)」といった三つの段階を繰り返すことにより日本社会と關係性を保つと理論化した。「正(受容)」では結婚と出産という生涯周期に直面し、家事と育児と仕事という多重役割を果たしている女性たちの姿が見える。この受容段階の特徴は家庭のケア労働を任されている比較的に若い中年の専業主婦に葛藤がより多く見られるということである。「反(偏見)」では中高年女性たちが韓流消費を持続していく中で日本社会の様々な偏見とぶつかり合う過程のことを示す。特に、この段階では女性同士による人的ネットワーク構築と仲間活動が韓流消費持続に大きく影響を与えており、女性たちのコミュニケーション能力が伺える部分である。「合(セルフケア)」段階では様々な日本社会の偏見と向かい合いながらも韓流消費を持続していく中でセルフケアを行い、より成熟した社会構成員としての自己像を作っていく中高年女性たちの姿が伺える。ここでは、韓国の儒教的価値観に共感し、女性・妻・母として社会に認めてもらいたいと思う中高年女性の欲望が読み取れる一方、周辺化されている女性の労働に対しその価値を自分自身で見つけようとする能動的主体としての女性像が伺える。

第六章は、3段階のコーディング作業により得た分析結果をもう一度要約した上、「女性と仕事と余暇」に関する問題意識を社会学的観点から「考察」という形で2節にわけてまとめている。日本における中高年女性たちの韓流消費を余暇と見なし論じていく。現代社会においての余暇とは仕事と生活の領域を分離することで産まれる概念であるが、日本社会は未だに女性の仕事は価値の低いもの、ケア労働は無給で行われ、女性の経済的価値が低いとされている。そこで仕事が充実していない、経済的にも低い位置におかれている女性たちは余暇を存分に楽しむ権利も失ってしまう。即ち、労働の価値が低い人は余暇の価値も低くみられ、余暇に与える時間とお金を奪われると主張する。従って、韓流消費を自分の余暇の大事な一部分として捉えている今回のインフォーマントたちにおいて、韓流消費は周辺化された労働を行う女性たちの余暇に関する社会的偏見を読み取る接点に結びつけられるという。様々な偏見の中で「正(受容)・反(偏見)・合(セルフケア)」といった三つの

段階を繰り返しながら韓流を消費する行動は、日本における韓流消費をサブカルチャーとして位置づける求心力として働くと筆者は主張する。

終章では、質的研究としての本研究の限界点としてインフォーマント選定における妥当性と飽和性についての補足を加えた。そして、導出した三つの理論である「インフォーマントの韓流消費における三つの類型」、「セルフケア (Self-Care) 手段としての韓流消費」、「韓流消費持続の三段階、正・反・合」の検証の可能性について述べている。

4. 評価

まず、第一に評価されるのは、著者が明確な問題意識を有し、その問題意識を学問として昇華させるリサーチのあり方 (research design) を具現化させたことである。韓流が日本の中高年女性の間で持続的な人気を有していることは知られているが、この現象にいかに関学的に接近し、分析するかは決して容易な課題ではない。著者は、社会学のグラウンデッド・セオリーにもとづき、質的研究として一定の分析手法にもとづきこの現象を検証したことは評価される。

第二には、第一の点に関連するが、グラウンデッド・セオリーの概念を忠実に理解し、オープン・コーディング (Open coding)、アキシアル・コーディング (Axial coding) の手法を用いて、24個のカテゴリーを抽出し、さらにセレクトティブ・コーディング (Selective coding) によってインフォーマントのストーリーを導き出すという方法論の厳密性が認められる。グラウンデッド・セオリーが質的研究方法として確立されているが、この博士論文は、「教科書」のようにこの方法論を的確に事例に適用していると評価された。

第三には、実証研究としての意義が認められることである。著者は47名のインフォーマントにインタビューをおこない、インフォーマントがどのような学歴、年齢構成、家庭環境にあるのかを類型化した上で、各インフォーマントが韓流を消費するその要因を描き出した。この実証研究においては、24個のカテゴリーによる切片化という類型化の分析が評価されるのはもちろんであるが、各インフォーマントによるストーリー叙述ともなっており、類型化と個別叙述という検証方法が融合されている。

第四には、グラウンデッド・セオリーという理論にもとづいた枠組から47名のインフォーマントを分析した結果、日本の中高年女性による韓流消費には「セルフケア」の要素があり、また同時に、日本社会において女性が抱えている諸問題をも照射するという結論には説得性が認められる。

以上のような学問的意義が認められる一方で審査の過程では以下のような問題も提起された。専門用語の使い方に曖昧な点がある、インフォーマントのストーリーラインを重視するといっても同じ表現が繰り返されることは望ましいとはいえない、参考文献に英語の文献がもっとあるのではないかとといった意見が出された。

5. 結論

いくつかの問題点も指摘されたが、この論文は、グラウンデッド・セオリーに基いた厳密な検証方法を適用し、日本における中高年女性の韓流消費について、インフォーマントへのインタビューを分析したものであり、その分析結果は、社会学上の学問的オリジナリティと知見を提示していると審査委員会は判断する。よって博士論文審査委員会は全会一致で博士号の授与を提案する。